

所在地：島根県奥出雲町

選定年月日：平成26年3月18日

面積：1,563.3 ha

選定基準：二(一)(一)(三)(五)(六)(八))

(1) 概要

斐伊川(ひいがわ)の源流部に位置する奥出雲地域は、起伏の緩やかな山地と広い盆地が発達しており、「真砂砂鉄(まささてつ)」と称される良質な磁鉄鉱を多く含有する地帯であることから、近世・近代にかけて我が国の鉄生産の中心地として隆盛を極め、「たたら製鉄」が栄えました。

丘陵を切り崩し水流によって比重選鉱するという「鉄穴流し(かんながし)」が広範囲に行われ、この鉱山跡地(鉄穴流し跡)では、後にその地形を活かして豊かな棚田が拓かれました。江戸時代、松江藩は、有力鉄師(たたら経営者)のみに鉦株(たたらかぶ) (鉦経営権)を与え、安定経営を図ったため、国内の一大鉄生産地域となります。明治に入り、安価な洋鉄が大量に輸入されるようになったことなどから、たたら製鉄は次第に衰退し、大正末年には一斉廃業となりました。その後、日本刀の材料となる「玉鋼(たまはがね)」が枯渇したことから、昭和52年にたたら製鉄は選定保存技術として復活しています。

このように、奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観は、たたら製鉄・鉄穴流し及びその跡地を利用した棚田によって形成されたものです。鉄穴横手(かんなよこて)(水路)及び鉄穴残丘が点在する棚田が広がりをもせる農山村集落を、かつて鉄山(てつざん) (たたら製鉄用の木炭山林)であった山々が取り囲み、その一部で今なお、たたら製鉄が行われている景観地は、我が国における生活又は生業の理解のため欠くことのできないものです。



鉄穴流し跡に拓かれた棚田と追谷集落



鉄師であった櫻井家の住宅

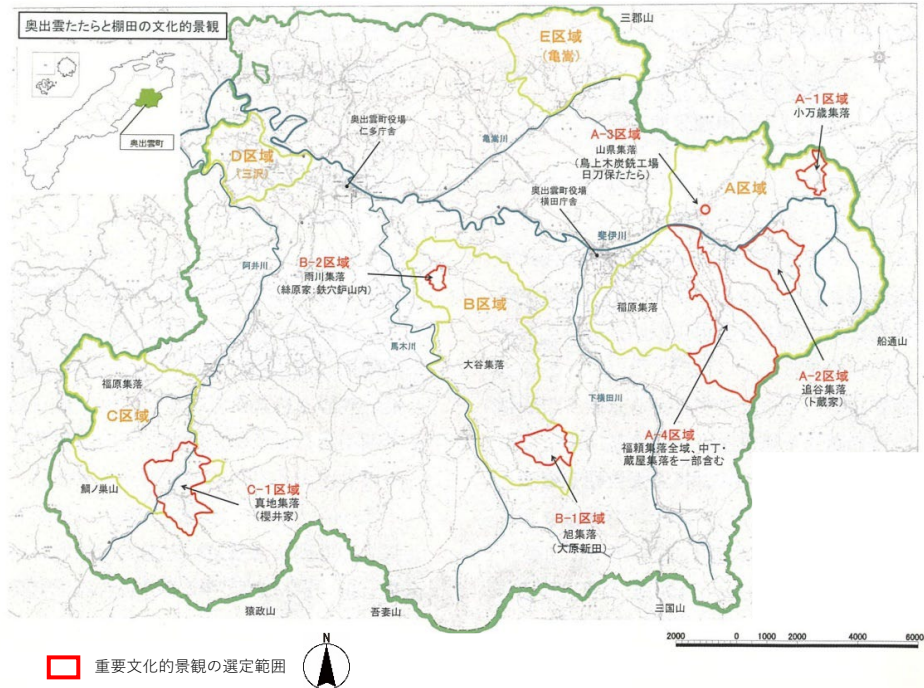


鉄穴残丘が点在する棚田



鳥上木炭銑工場と日刀保たたら

(2) 選定範囲



- 重要な構成要素：91件(水田は1件とカウント)
- 国指定等文化財：櫻井家住宅(建造物)、櫻井氏庭園(名勝)、絲原家住宅(登録有形文化財(建造物))、絲原氏庭園(登録有形文化財(名勝))、たたら角炉(登録有形文化財(建造物))、鳥上木炭銚工場角炉施設(登録有形文化財(建造物))

(3) 選定による効果

たたら製鉄に由来する文化景観の保存調査がスタートすると地域住民も遺跡の草刈りをはじめ、展望デッキの設置や子どもたちへの鉄穴流し体験学習を行う団体「みどり会」が結成されるなど、行政と地域住民との協働した取り組みへと発展しました。

選定後は、これまで観光客が訪れることのなかった集落にも景観を愛で多くの来訪者やテレビロケが行われるようになりました。地域住民が主体となった棚田のライトアップイベントや地域間交流、ボランティアガイドの結成など、選定により地域の誇りを取り戻し、様々な自主的な取り組みが始まり、地域が元気になりました。



地域住民が自主的に実施する棚田の
ライトアップイベント（追谷自治会）



地域住民自らが設置した
展望デッキに訪れる観光客（福頼集落）

(4) 保存活用計画などの基礎情報

- ・ 文化的景観調査報告書（平成25年3月、奥出雲町）
- ・ 文化的景観保存計画書（平成25年7月、奥出雲町）
- ・ 文化的景観保存活用計画書に改定（令和3年10月、奥出雲町）
- ・ ホームページ <https://www.town.okuizumo.shimane.jp/>

(5) 活用事例

事例32-01 ①

集落の願いをこめたサイン標柱の設置により歴史を重ね、地域の誇りを取り戻す

文化庁補助金

●行政による取り組み

たたら製鉄は安い輸入洋鉄により大正末年に終焉を迎えました。その後、たたら経営者であったト藏家が経営した製鉄工場（原鉦）の遺構が残る追谷集落では、鉄の不足から昭和13年に操業を再開することになりました。その時に、祝いの気持ちとたたら製鉄の聖域として復活したことを記念し集落の入り口に鳥居が建立され、住民全員が集い撮った記念写真が残っていました。

形は違いますが、たたら製鉄に由来する重要文化的景観に選定されたことを誇りに思い、かつてあった鳥居に模したサイン標柱を集落入り口に掲げてほしいとの願いに答え、鳥居をイメージしたサイン標柱を設置することとし、住民はたたら製鉄の歴史を積み重ねることができ、地域の誇りを取り戻しました。

追谷集落の声

集落の入り口にあるサイン標柱を通勤や通学の行き帰りを見ると、集落のたたら製鉄の歴史が今に受け継がれていることを実感し、嬉しく思います。



たたら製鉄の復活を祝し、集落入り口に建てられた鳥居前での集合写真（昭和13年）



たたら製鉄の復活を祝う製鉄労働者（昭和13年）



集落入り口のト藏橋の改修に併せ重要文化的景観のサイン標柱をバックにした集合写真



重要文化的景観の選定を祝した集落住民の渡り初め



団体等情報：追谷活性化協議会「ばくらの学校（追谷自治会）」

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を
引き出す
開発

⑤ 財源の
確保と
運用

⑥ 人づくり
・

(5) 活用事例

事例32-01 ②

登録有形文化財絲原家住宅の計画的な修理事業による一般公開の促進

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

江戸時代、松江藩の有力鉄師（たたら経営者）であった絲原家は、たたら製鉄で財を成した調度品やたたら製鉄の歴史などを普及啓発するミュージアム「公益財団法人絲原記念館」を自主運営し、鉄師頭取の付まいを今に伝える邸宅や庭園も一般公開しています。

しかし、広大な邸宅及び庭園とも登録有形文化財であったため、その維持管理は自主財源で対応するほかなく、老朽化が進む家屋の修理への対応には苦慮しておられました。

重要文化的景観の重要な構成要素となったことで、文化庁の補助事業を活用して工事を行うことができるようになりました。年次計画を立てて保存修理をすることで、たたら製鉄を背景とする文化的景観を来訪者に公開が可能となっています。

所有者の声

文化的景観の重要な構成要素にさせていただいたおかげで、修理工事に支援が受けることができ、たたら製鉄の歴史文化を知る文化的景観を一般に広く公開することができ、感謝しています。



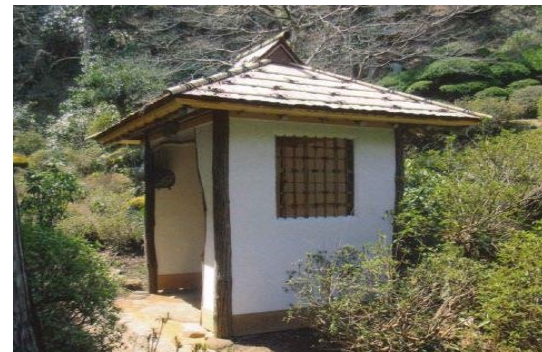
雨漏りが始まった絲原家住宅柿葺き屋根



修理事業によって保存修理された柿葺き屋根



倒壊しそうになっていた絲原家住宅茶室待合



修理事業により来訪者に公開できるようになる

団体等情報：登録有形文化財絲原家住宅（公益財団法人絲原記念館）
<https://itoharas.com/>

① 地域内での
魅力の共有② 活性化の
共有③ 地域外への
広報④ 魅力を
引き出す⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり

（５）活用事例

事例32-01 ③

文化的景観を活かした米のブランド化、自主的活動の活性化、交流人口の拡大

●住民や団体等による取り組み

追谷集落では、選定前から展望デッキの設置など様々な取り組みが行われていましたが、保存調査を通して機運が高まり、空き家をリノベーションする古民家再生プロジェクトの実施や古民家を活かしたビジター施設の整備にまで取り組みが発展しています。選定後には、重要文化的景観を見に来訪した会社経営者などとの縁ができて、支援していただくことで棚田のライトアップイベントや米のインターネット販売の活動につながりました。集落内では、たたら製鉄に関連する建物を改修したカフェ（蕎麦屋）「たたらのかい（え）」がオープンするなど、活気がもたらされています。

福頼集落では、追谷集落に倣って棚田の展望デッキや駐車場の整備をはじめ、令和5年度からは有志による文化的景観ボランティアガイドの会が結成され団体客などに説明を行っています。

この他にも、たたら製鉄の歴史文化である砂鉄採取法の「鉄穴流し（かんながし）」の体験学習を子どもたちに実施する団体「みどり会」や、製炭文化を普及啓発する団体「きのこ会」が結成されるなど、文化的景観の取り組みを契機に、様々な活動が活発に行われています。



福頼自治会の手づくりによる展望台とボランティアガイドによる説明の様子



重要文化的景観を活かした米のブランド化に取り組み所得向上を図る追谷自治会（インターネット販売）

福頼自治会の声

選定後、誰ひとり訪れることのなかった集落に多くの来訪者があり、集落が活性化しました。



子どもたちに文化的景観の成り立ちを教える鉄穴流し体験学習を実施する「みどり会」



重要文化的景観の棚田を活かした地域間交流に取り組む追谷活性化協議会「ほくらの学校」



みどり会の声

たたら製鉄の歴史文化を子どもたちに教えることで、私たちが元気ももらっています。

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の目標の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり